



確率の基本性質の確認

★確率とその基本性質は次のように考えよう。

確率

全事象 U の根元事象のどれが起こることも同様に確からしいとき、ある事象 A が起こる確率 $P(A)$ は

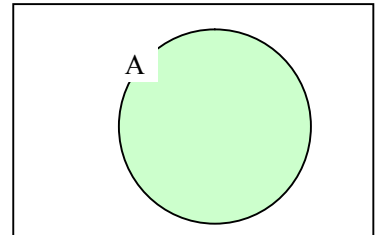
$$P(A) = \frac{\text{事象 } A \text{ の起こる場合の数}}{\text{起こりうるすべての場合の数}}$$

確率の基本性質

確率 $P(A)$ の値の範囲

$$0 \leq P(A) \leq 1$$

特に $P(\phi) = 0, P(U) = 1$



確率の加法定理

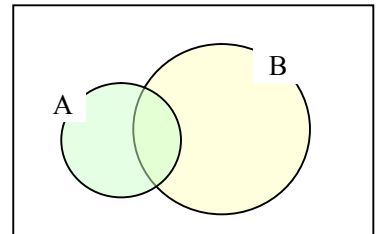
A, B が互いに排反のとき

$$P(A \cup B) = P(A) + P(B)$$



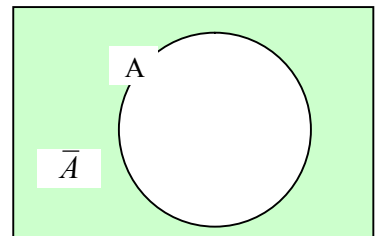
和事象の確率

$$P(A \cup B) = P(A) + P(B) - P(A \cap B)$$



余事象の確率

$$P(\bar{A}) = 1 - P(A)$$



※ 確率を求めるときは、次のことも頭の隅に置いておこう！

- 確率の値が、1を超えたり、負になることはない。そのような答えが出たら誤りである。もう一度解答を確かめてみよう。
- 「少なくとも…」や「…以上」・「…以下」というキーワードが出てきたら余事象の確率を